

説教余滴、2018年5月27日、牧会祈祷その後

5月6日付週報の本欄に、「牧会祈祷は難しい」と題して、書きました。その後、いくつか反応がありました。皆様にもお伝えしたほうが良い、と考えたことがありますので、もう一度、書かせていただきます。

かなり、革新的と言われるようなことも、祈っていました。ある教会では、大学教授から言われました。「先生の考えていること、語る内容は、この教会の大方にとっては、大変革新的です」。これは忠告でした。私は、保守的な、古い気質の人間であると自覚していますので、びっくりしました。田浦教会で、私の牧会祈祷がどれほど受け入れられ、認められているか、実は不明です。しかし、今回寄せられたいくつかの反応は、「先生の祈祷を楽しみにしています」、というものでした。とても支えられ、励まされます。

もう一つの反応があります。「これは、大変厳しいご意見ですね。でも私は、この方が、先生に対して信頼を寄せているからこそ、あの意見を申されたのだと感じました。」というものです。たいへん嬉しい反応でした。信頼があるからこそ、異なる考えも語ることができます。同じように、それを受け入れることも出来ます。そして、新しい道を皆様と一緒に模索して行こう、と考えています。

埼玉県春日部市に「シャロンのバラ伝道所」がありました。今は、教会になっています。

開設者は、鈴木牧師、先輩です。この先生が、礼拝の折になさった祈りの一部が、『祈り PRAYER』と題されて一書となっています。1991年5月19日を第1回として1994年3月27日まで、150回の祈祷を収めています。

類書が少ない、ということもあり、たいへん学ぶことが多く、有益なものです。

心を合わせてアーメンと唱和できるような祈りが生まれたならば、田浦教会が一段と力強く前進するようだと嬉しいです。